

お詫びと訂正

本書の誤りがございました。下記のように訂正します。
読者の皆様に深くお詫び申し上げます。

株式会社 カイ書林

P4 の図 1-8 S6 の説明文

誤： 左肺は肺尖区 (S1) と後区 (S2) は一緒になって肺尖後区 (S1+2) となっている。

正： S6 は上-下葉区である。左肺では下行大動脈の上半部に接し、上方で上下葉間裂 (MF) と接している。

P33 の下から 6 行目の 2) の位置

誤： 1) 正常では存在しない異常な陰影を見つける
普通のやり方。初診者むき。次の②よりは簡単だが、それでも normal
2) variant (図 4-7 参照) を知らないとミスをおかす。
正常では見えるはずの陰影 (正常構造) が見えない

正： 1) 正常では存在しない異常な陰影を見つける
普通のやり方。初診者むき。次の②よりは簡単だが、それでも normal
variant (図 4-7 参照) を知らないとミスをおかす。
2) 正常では見えるはずの陰影 (正常構造) が見えない

P36 の 2 段目の下から 2 行目

誤： フィル

正： フィルム

P53 表 4

表 4-1 肺胞性陰影と間質性陰影

	肺胞性陰影	間質性陰影
陰影の基本型	細葉性陰影	粒状影, 網状影, 線状影
陰影の分布	区域または肺葉に一致	区域や肺葉に関係なし
陰影の辺縁	不鮮明	鮮明
融合傾向	著明	少ない
その他の特徴	air bronchogram, butterfly shadow	Kerley's line, honeycomb

P68 「陰影の性状を基準とした表現」

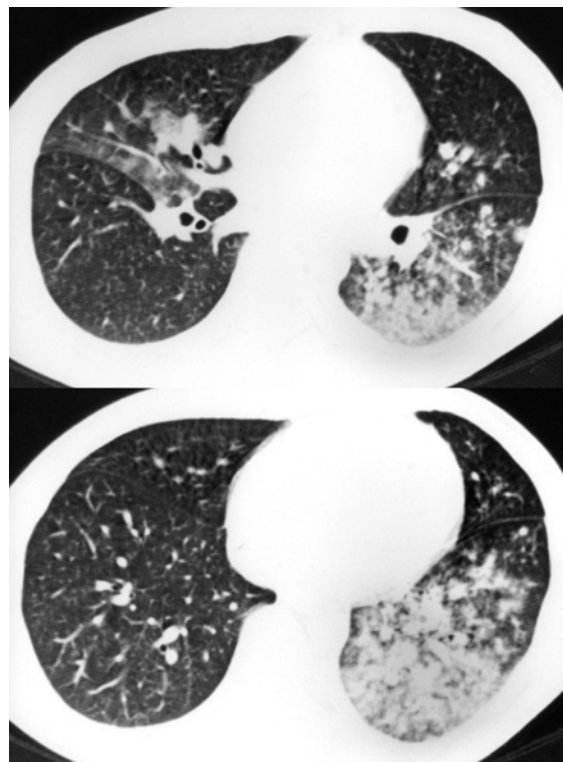
考えてみよう

陰影の性状を基準とした表現

斑状影 patchy infiltrates	辺縁の不鮮明な“結節影”とも表現できる。大きさは 1~2 cm ぐらいまでを意識している。
均等影 homogenous shadow	濃度の均一な陰影。広がりの規定はない。
融合影 confluent shadow	多少の濃淡不均一な陰影。広がりの規定はない。
浸潤影 (infiltrates)	肺の肉眼的構造物の破壊や偏位を伴わない。病理学的な浸潤を想定した ill-defined opacity。あらゆる ill-defined opacity に対して使われることもある。広がり自体は規定されていない。

P82 図 5-14b

誤：



正：

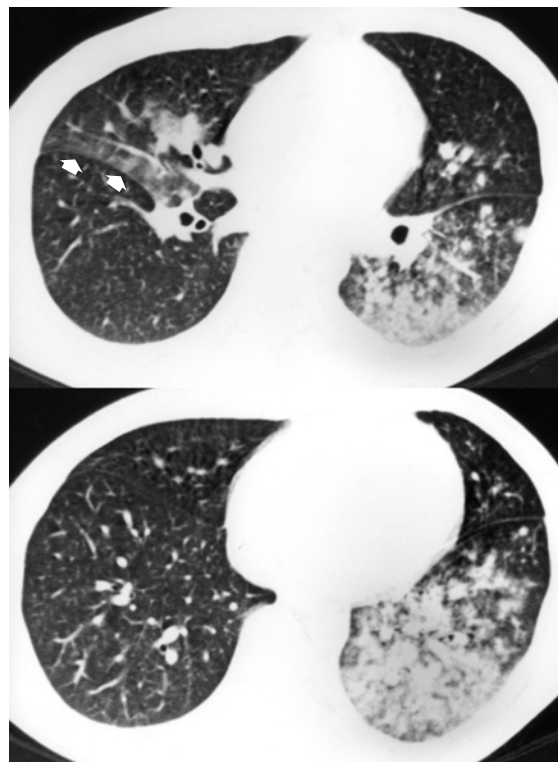


図 5-14b CT像

上段の画像 (中肺野のスライス) では、細気管支を中心とした粒状影~斑状影の散布と融合が見られる。右中葉の一部 (白矢印) にスリガラス様の間質影が認められるが、全体としては細気管支肺炎の像である。下段の画像 (下肺野のスライス) では、左下葉は融合傾向の強い斑状影でほぼ占められている。単純写真で心陰影後方の血管影が見えなかった理由である。(心陰影の後方こそが病変が最も強い!)